

1. 職名・氏名 講師・林潤2. 学位 学位 博士、専門分野 理学、授与機関 総合研究大学院大学、授与年月 1999年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1年生 導入ゼミ（1単位 前期15回担当）	
②内容・ねらい レポートの初歩的な書き方、文章表現の仕方を学ばせる。 基本となる科学的な考え方を学ばせる。 プレゼンテーションの初歩の表現技法を学ばせる。 初歩的な科学英語の文章を学ばせる。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 導入ゼミなので、なるべく初歩的なことから基礎知識を習得させるように気をつけている。 また、なるべく知識の羅列ではなく、時事的な事柄、最新のトピックスを盛り込み興味を持ちやすい講義になるように努力している。 プレゼンテーションを実際行い、資料の作成の仕方や口頭発表のやり方を実地で訓練する。 本年度はコロナ対応でGCによる遠隔授業用資料も作製	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 3年生 植物生理学II（旧園芸植物資源学）（2単位 前期15回担当）	
② 内容・ねらい 前期の植物生理学Iの継続としてエネルギー代謝、同化と異化、を担当する。 植物生理学Iで学んだことをふまえ、植物の生理に関してさらに詳細な知見を学ぶ。高等植物のエネルギー・物質代謝についての統一的な知識を学ぶことで、3年次以降の分子レベルでの学習の基礎を築く。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基本的に学生は予習復習しないので、授業の前半30分を資料参照可での授業内容の小テストを最初に行い、その後、解答説明を兼ねて講義にしている。 期末テストは小テストから出題することをアナウンスしているので比較的まじめに聞いている学生が多い。 本年度はコロナ対応でGCによる遠隔授業用資料も作製	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1年生 化学実験（分担）（1単位 通年15回担当）後期7回担当 分担者：日牟教授、片野教授、伊藤教授、植松准教授、黒川講師	
②内容・ねらい 大学での実験の心構え、基本的な実験マナー、レポート作成を教育する。 基本的な実験器具の操作を理解させる。 自分たちで出したデータを基にした計算問題を出題して自分の頭で考えさせる。	

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

高校の教科書で学んだことを実際に体験できる内容とした。学生レポートの感想から概ね目的通りに授業ができていていると思われる。  
本年度はコロナ対応で半数ずつに実験室を分けて実験を行った。コロナ対応で GC による遠隔授業用資料も作製

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

3 年生 分子生物学実験 (分担) (1 単位 通年前期後期各 8 回) 4 回担当  
共同実施者: 石川教授、篠崎准教授  
前期のうち、前半 4 回は林が主担当、後半 4 回は石川教授が主担当  
本年度はコロナ対応で学生を半分に分けて共同実施者を行った。

②内容・ねらい

分子生物学分野における各種の“基本的な”実験技術の習得

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

分子生物学 I の講義内容になるべく沿った内容で演習を行い、講義と並行して座学の知識を実験で実感させる。  
本年度はコロナ対応で半数ずつに実験室を分けて実験を行った。コロナ対応で GC による遠隔授業用資料も作製

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

3 年生 科学英語 II (分担) (2 単位 前期 15 回) 7 回+期末試験担当  
共同実施者: 石川教授

② 内容・ねらい

生物資源学分野における英文を読み、その内容を理解する

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

グーグルクラスルームにあらかじめ英文課題を提示して、毎授業の初めにその英文内容に関する問題を解かせる。その後、解答を提示し、課題英文の内容や解答が英文内のどの部分かを講義する。  
単なる英文の和訳ではなく、内容を理解できているかを指導する。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

3 年生 分子生物学演習 (分担) (1 単位 通年前期後期各 8 回) 前期 8 回担当  
分担者: 石川教授、篠崎准教授

②内容・ねらい

分子生物学実験における試薬、実験方法に関する知識を学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

実験プロトコル章末に設問を入れ、実験原理等の理解の一助にしている。設問は実験終了後に各グループごとに解答させて公開討議の場を作りすべての設問が理解できるように工夫している。  
本年度はコロナ対応で GC による遠隔授業用資料も作製

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

4 年生 専攻演習 (2 単位 通年)

② 内容・ねらい (自由記述)
国内外の英語論文を熟読理解させて専門分野における研究の方向性、最新の知識を学ばせる。学術論文の読み方、データの捕らえ方を学ばせる。科学的な考え方を学ばせる。プレゼンテーションと質疑により知識として得たものをいかにして平易に発表するか、といった表現技法を学ばせる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
英語学術論文の購読。 段落ごとの内容や図表の解釈がどのように書いてあるかを曖昧にせず説明させる。 理解していない場合は次の授業にやり直して1つの論文をきちんと理解させる。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
4年生 卒業論文 (2単位 通年)
② 内容・ねらい
植物分子細胞生物学分野の研究を行い、その基礎的な知識実験を通して他人から教えてもらい、自分が実行するときはどういったことが必要になるかを実地に指導する。 これは、学生が就職後、初めに直面する非常に大事なことなので、重要視している。何度も行い聞かせやってみせて根気強く指導する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
日頃から、学生とデータのやり取りを常に行いディスカッションする。 実験方法の細かな注意点や実験機器類の操作上の注意点などをすぐに話し合えるようにしている。
(2)その他の教育活動

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表 年ベース 2022R4年1月-12月
①著書
【 本】
②学術論文 (査読あり)
【 1本】
③その他論文 (査読なし)
【 本】
④学会発表等
*1. メタカスパーゼが葉の暗所誘導老化に及ぼす影響について 日本植物生理学会 第63回年会 (2022年3月) 若松大誠, 福谷啓太, 島本莉香, 千葉未来, <u>林潤</u>
【 1件】

⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得 年ベース 2022R4 年 1 月-12 月	
(4)学会活動等 年ベース 2022R4 年 1 月-12 月	

5. 地域・社会貢献活動

公開講座「生物の死と老化の仕組み」

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
教職部会、学部備品委員会
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス
(4)その他、自発的活動など
施設管理 生物資源学部棟 501、505、508、215、213 実験準備室の管理運営 2020 年度入学生 学年副担任 学生サークル顧問：オカルトサークル